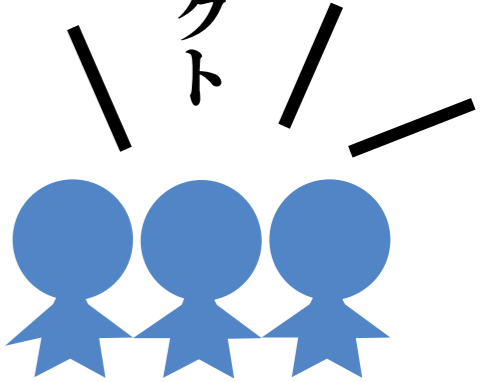


# 第3章

## 基幹プロジェクト



# 1 資源を活かして働く

## 1 特産品開発プロジェクト

本町は、イカ・岩ガキ・サザエ等をはじめとした水産物や、山菜をはじめとする農産物など、どこにも負けない豊かな資源に恵まれています。これらの資源を十分に活用できれば、本町産業により大きな効果をもたらすことが期待されます。

農林水産業者・UIターン者・地元住民等、様々な立場や目線で消費者のニーズにあった特産品開発を行えば、本町の資源はもっと輝きを増すはずです。そしてそれは、新たな雇用の創出、産業活性化につながります。

**西ノ島町ブランドの確立に向け、多様な主体の連携による特産加工品開発に取り組んでいます。**

関連施策No.1 (p31)



## 2 ビジネスプラン応援プロジェクト

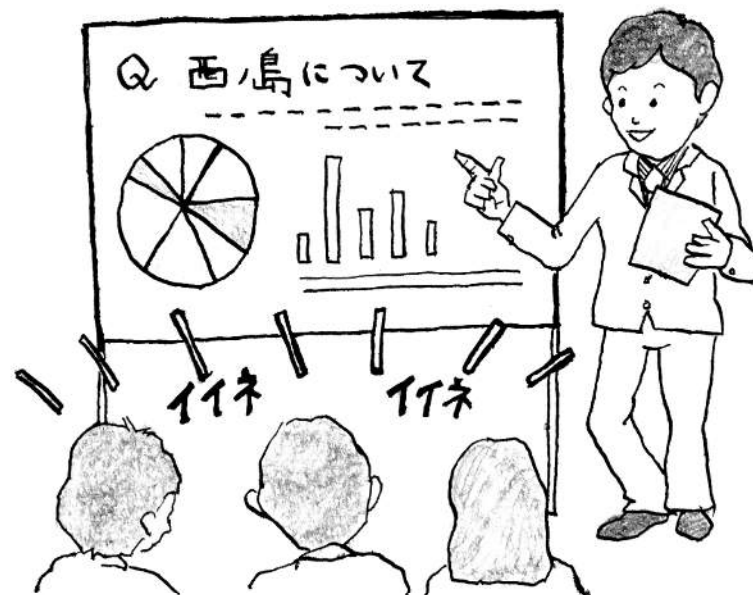
豊かな地域資源や、様々な地域ニーズ等、西ノ島町には多くの「しごとの種」があります。島の資源が有効活用され、ひとつでも多くのニーズが満たされれば、それがまた「人の集う島」へ近づく原動力となります。

もちろん、これらの種を活かして働くことは容易なことではありません。だからといって何もしなければ、何もわかりません。大切なのは、チャレンジする心。

これまでの「勤める」という働き方にとらわれることなく、自分のアイデアを活かしながら西ノ島町ならではの働き方を模索する。そのチャレンジする心を町も応援します。

**一人でも多くの「働く場」創出に向けて、起業や事業拡大に対する情報提供・経済支援・人材確保等、積極的な支援に取り組めます。**

関連施策No.23 (p37)



### 3 農産物地産地消プロジェクト

本町は、火山形成された島であるために平地が少なく、農業をする環境としては恵まれていません。このため、本町の農産物は、主に家庭菜園で生産されている程度です。

しかし、この豊かな自然と気候に育まれた西ノ島町の農産物は新鮮だと評判です。このようなおいしい農産物が町内の様々な施設等で販売できる体制を整えば、農産物に対する需要が増え、これまでの「家庭菜園」から収入を得る「農業」への転換を図ることができます。また、町内で農業をする町民が増えれば、遊休地の利用も進みます。

**産業としての農業再生に向け、西ノ島町産農産物の島内流通拡大に取り組みます。**

関連施策No.17,22 (p35,37)



## 2 助け合い健やかに暮らす

### 1 育てたい！プロジェクト

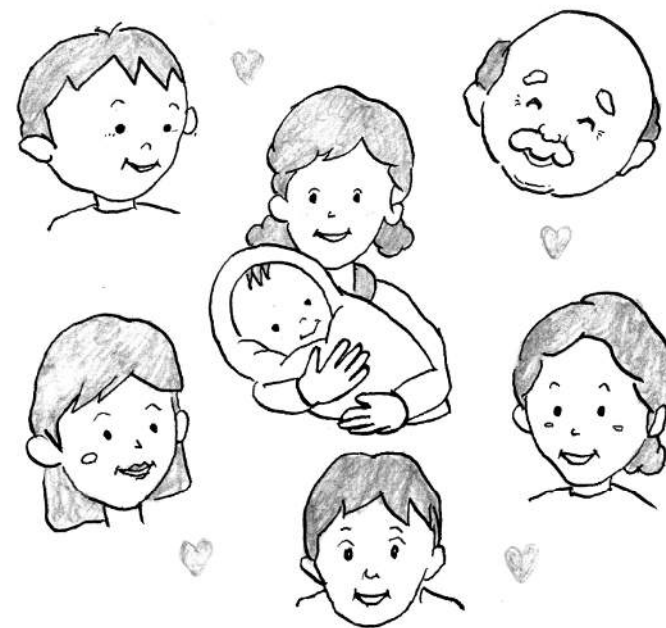
本町では、毎年およそ 20 人の子どもが生まれています。一方で、毎年およそ 60 人の方が亡くなっています。本町の将来的な人口の維持には、子どもの数を増やすことが不可欠です。

子育てはどこでも大変なことです。本町では出産のできる病院がないことによる経済的負担・精神的負担や、I ターンの方には頼れる親族がない等、離島ならではの悩みもあります。

子どもの数を増やすために町としてできることは、これらの悩み解決を図り、少しでも安心して子育てができる環境を整備することです。

**一人でも多くの「育てたい！」を生むため、子育て世帯への支援充実、保育体制の充実、地域による子育て支援体制の構築に取り組みます。**

関連施策No.38-42 (p43)





## 2 全町一丸！高齢者福祉充実プロジェクト

今後、本町の高齢化率は高くなりますが、高齢者の数そのものは増えません。むしろ、10年後には減り始めます。今後の福祉施策を考えるにあたっては、高齢者数の動向を見極めながら、在宅福祉と施設福祉をバランスよく充実させていくことが大切です。

ただ、若い世代が減り続ける中、専門家の力だけに頼ってはその力もいつか疲れ果ててしまいます。関係機関や地域、住民一人ひとりが、「自分たちにできることは何か？」を考え、見守り・声掛け等を行うことで、高度な専門技術が無くても、高齢者に提供できる安心感があると考えます。

**高齢者の安心感を育むため、在宅福祉の充実のみならず、福祉施設の充実と、地域による福祉支援体制の構築に取り組みます。**

関連施策No.44-49 (p45)



## 3 ちょっと聞いてよ！プロジェクト

本町はこれまで、人口減少対策として子育て支援と定住政策に取り組んできました。また、高齢化対策として、医療・福祉サービスの充実に取り組んできました。しかし、島独特の文化、慣れない就労環境や子育て、介護疲れ等により、一人で悩みを抱えたり、町を離れる人もいらっしゃいます。

話を聞いてあげることが、すぐに問題の解決にはならないかもしれませんが、話をすることがきっかけとなって地域とのつながりが生まれ、気持ちが晴れることはあると考えます。町としてもこれらの声を聞くことが重要だと考えます。

**人口減少・高齢化対策を支えるために、相談体制の構築に取り組みます。**

関連施策No.30,83 (p39,59)



## 4 地域力の結集プロジェクト

少子高齢化が進む中、西ノ島町内の各集落では、買い物弱者の増加、地域防災力の低下、独居老人の増加、地域文化の衰退等、様々な地域課題が顕在化しています。

一方で、西ノ島町には、地域のために奮起している魅力的な人たちもたくさんいます。活動は人それぞれ違いますが、「地域を良くしたい！」という想いは同じです。一人ひとりの力は小さいものですが、今住んでいる3,000人それぞれの魅力と技を結集して行動を起こせば、地域課題のみならず、新しい「人の力」を呼び込む原動力にもなると考えています。

**地域の力を最大限に引き出すことが出来るよう、集落機能の強化を図るとともに、人と人をつなぐ西ノ島町人材バンクの構築に取り組みます。**

関連施策No.57,96 (p49,63)



用語解説

買い物弱者（かいものじゃくしゃ）

## 3 自然とともに暮らす

### 1 エネルギーの自立化推進プロジェクト

東日本大震災は、私たちにこれからのエネルギー利用のあり方について、大きな問題提起を行いました。自立したエネルギー供給体制の必要性を感じた方も少なくはありません。

今まで化石燃料に依存してきた私たちにとって、自立したエネルギー供給体制を短期間のうちに構築することはできません。しかし、近づくための努力はできます。

太陽光・風力・波力等の自然エネルギーをはじめ、海岸漂着物・家畜排泄物・間伐材等も、エネルギーとして利用できる可能性があります。

**自然と共生した暮らしの実現に向け、様々な資源のエネルギー利用の可能性を検討します。**

関連施策No.62 (p51)





## 2 地域連携美化活動プロジェクト

豊かで美しい自然は、本町が持つ最大の魅力です。しかし、海岸漂着物等により島の美しさが損なわれています。

町取組だけでは、解決できないこともあります。しかし、この魅力を町民自身によって損なうようなことはあってはなりません。美しいまま次代へ継承すること、それが今を生きる私たちの役割だと思います。

現在、これらのゴミは、町による取組と町民ボランティアにより回収され、美しい環境が保たれています。「エネルギーの自立化推進プロジェクト（p21）」を進める中で、海岸漂着物や家畜排泄物等のエネルギー利用が可能となった際、町民の活動はエネルギー源を収集する力となります。

**将来的なエネルギー利用も視野に入れた、地域連携による美化運動の推進に取り組めます。**

関連施策No.65 (p53)



## 4 島外へ伝える

### 1 西ノ島町を伝える！プロジェクト

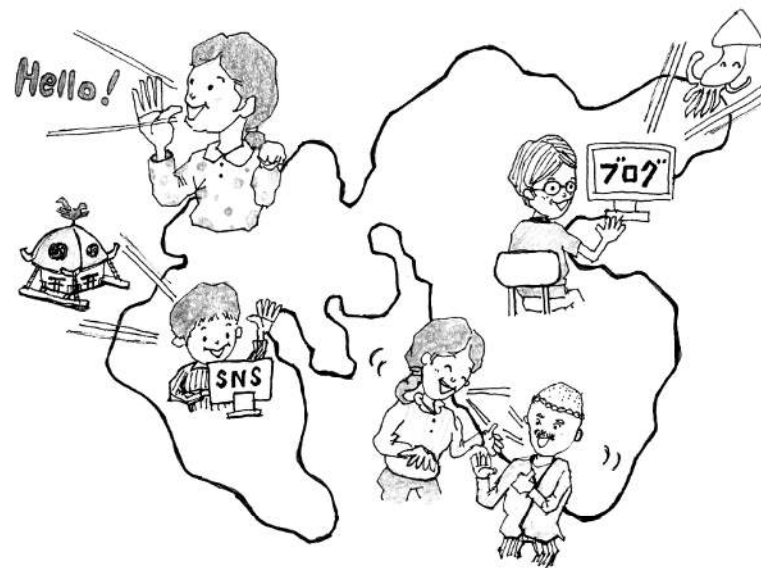
SNSやブログ等を利用して、魅力ある情報を発信している町民は少なくありません。その内容は、その人にしか伝えることのできない「生きた魅力」に溢れています。インターネットが普及した今、島の魅力を広く伝える手段として、これらの活用は欠かせません。

一方で、優しさ・ぬくもり・感謝等、人と人が対面することでしか伝わらない魅力もあります。

島の魅力を島外へ伝えるために必要なのは、様々な方法を状況に応じて使い分ける、「伝える力」です。

**島の魅力をたくさんの人に知ってもらうため、様々なPR活動に積極的に取り組みます。**

関連施策No.74-77 (p57)



用語解説

SNS(えすえぬえす) ブログ

## 2 「行ってみたい！また会いたい！」プロジェクト

豊かな自然・マリンスポーツ・食べ物等、西ノ島町に「行ってみたい！」と思う人の動機は様々です。町にある多様な資源をフル活用すれば、もっと多くの「行ってみたい！」という気持ちが生まれるはずです。

島外の人には何度も訪れてもらい、西ノ島町のことをもっと知ってもらいたい。そのためには、何度も足を運びたい「強い動機」が必要です。

それは、「また会いたい！」という気持ちです。この気持ちは、人と人との繋がりを、ふれあいの中から生まれるものと考えています。

**島外の人に何度も足を運んでもらえるよう、おもてなしの推進や、Uターン者のきっかりに取組みます。**

関連施策No.11,79-80 (p33,59)



## 5 島内で受け継ぐ

### 1 ジオパーク等と連携したふるさと教育プロジェクト

西ノ島町は、長い地殻変動の中で湖底や海底に沈んだ後、火山活動によって隆起しました。また、海面の上下動に伴う風化・浸食、本土との陸続きの時代を経て、ようやく現在の形となりました。

そしてこの複雑な大地の成り立ちが、他に類を見ない独特の景観、豊かな漁場、生態系を育みました。町の産業や文化は、全てこれらに生かされていると言っても過言ではありません。隠岐諸島の日本ジオパーク認定は、「大地の成り立ち・豊かな生態系・人々の営み」が、今も密接に関係していることが評価されたものです。

私たちにとっては当たり前のことでも、他の地域にない魅力が溢れています。このことは、将来の西ノ島町を背負っていく子どもたちにしっかりと伝えていくべきであり、そのための教材は、島中に転がっています。

**子どもたちに島の魅力を伝えるために、ジオパーク等と連携したふるさと教育の推進に取り組みます。**

関連施策No.94 (p63)



用語解説  
ジオパーク



## 2 地域文化伝承プロジェクト

「庭の舞」、「田楽（十方拜礼）」、「島前神楽」等、本町には先人より古くから受け継がれた、地域文化（民俗芸能）が今も残っています。

これまで、地域文化の伝承は、地域の人が主体となり行われてきましたが、人口減少が続く中、後継者不足が懸念されている団体もあります。

今後は島前3島の連携、UIターン者の活用等、新たな継承方法を考えていく必要もあります。

**地域文化の伝承に向けて、幅広く担い手育成の支援に取り組みます。**

関連施策No.100 (p65)



## 6 基盤をつくる

### 1 島の防災力強化プロジェクト

東日本大震災では、巨大な地震や防潮堤をはるかに越える津波が沿岸部を襲い、東日本を中心に甚大な被害をもたらしました。

人間の力は、自然の猛威を完全に押さえ込むことはできません。災害時、少しでも多くの命を救うためには、今まで取り組んできたハード整備に加えて、一刻も早く安全な場所に避難できるような体制づくりが大切です。

**島の防災力強化に向けて、避難経路の確保、地域での互助体制、防災拠点等の整備に取り組みます。**

関連施策No.106-108 (p69)





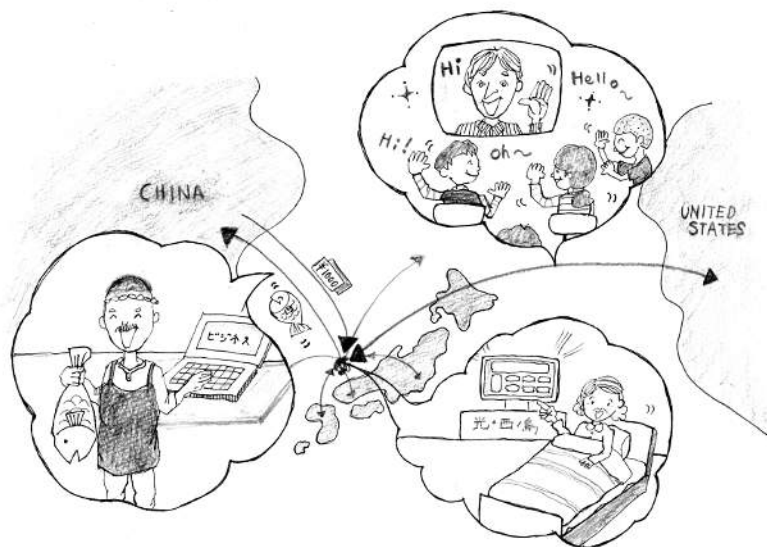
## 2 高度情報化推進プロジェクト

インターネットの利用は、様々な分野で欠かせないものとなっています。本町では、光ファイバー網の整備により、本土や町内地域間との情報通信格差は解消され、高速の情報共有等が可能となりました。

インターネットは、離島が持つ「距離」のハンディキャップを乗り越える力を秘めています。また、人口の減少が進む中でも、都市に負けない利便性を提供する可能性を秘めています。

**産業、保健・医療・福祉、教育等あらゆる場面での利便性の向上に向けて、具体的な活用方策の検討、高いIT技術や知識を有する人材育成・確保に取り組みます。**

関連施策No.113-115 (p71)



用語解説

光ファイバー（ひかりふあいばー） ハンディキャップ IT技術（あいていぎじゅつ）

## 3 遊休施設掘り起しプロジェクト

町内には、人口減少に伴う空き家、小学校の統廃合による廃校舎、耕作放棄に伴う遊休地等、多くの未活用の施設や土地等があります。

一方で、仕事・住まい等、「場所」を必要としている人は少なくありません。所有者の合意等、解決しなければならない問題はありますが、まずは「どこにどのような施設や土地があるのか」を整理していく必要があります。

**町内の空き家・遊休地等の有効活用に向けて既存ストックのデータベース化に取り組みます。**

関連施策No.122 (p75)



用語解説

既存ストック（きぞんすとく）